

気象コラム(8)

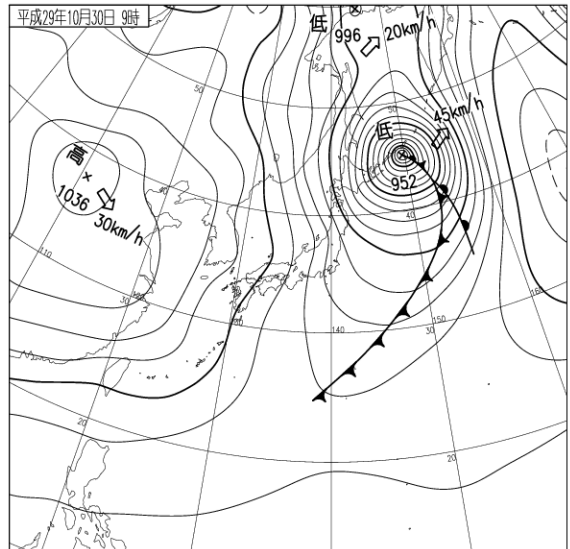
「木枯らし一号」という言葉をご存知でしょうか。

気象庁のホームページには次のように記載されています。「季節が秋から冬へと変わる時期に、初めて吹く北よりの強い風のことを言います。具体的には、10月半ばの晩秋（ばんしゅう）から11月末の初冬（しよとう）の間に、初めて吹く毎秒8メートル以上の北よりの風のことです。気象庁では、東京地方と近畿地方でこのような冬になったことを感じさせるような風が吹いたとき、「木枯らし1号」のお知らせを発表しています。」（気象庁はれるんランド）

今年、この「木枯らし一号」は10月30日に吹きました。昨年よりも1日遅かったそうです。どのような気象概況だったかということ、台風22号が日本付近を通過した翌日にあたります。台風22号が北海道の東で温帯低気圧に変わり、西高東低の気圧配置となり、北よりの強い風が吹きました。

このとき山ではどのような天候だったのでしょうか。

参考のために、ヤマテンが北アルプス北部について29日に発表した文章を掲載します。「強い冬型の気圧配置で、700hPaで-9℃以下、850hPaで-3℃前後の今季一番の強い寒気が入る。このため、稜線では北西風が非常に強まり、風雪の荒れ模様の天気。特に朝のうちは暴風雪になる恐れ。24時間で立山剣連峰で60cm前後、白馬岳など後立山連峰北部で70cm前後の大雪の見込みで、吹き溜まりではさらに増える恐れ。沢筋では雪崩に警戒が必要。警戒事項：暴風による行動不能、強風による転滑落、落雷、テント倒壊、乾雪雪崩、低体温症、凍傷、視界不良による道迷い」



10月であっても、都会で木枯らしが吹くような日は、山（特に雪山）では荒天になる、ということですね。そして11月にもなると、このような気圧配置になることが多くなり、山は冬山へとなっていきます。

ちなみに、「木枯らし一号」が気象庁から発表されるのは東京地方と近畿地方だけで、他の地域では発表されないそうです。また、発表するのは「一号」だけで、「二号」や「三号」は発表されないそうです。

（高田和孝/H.C.teruru）